

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っていること、負担に感じていること等を具体的に書いてください。

- ・夜間20時頃から深夜24時頃までリビングの和室のコーナーで過ごしており、本人の居室は安心できる環境になっていないのではないかと思います。居室と和室のコーナーを行ったり来たりし、それが不穏な行動に思え、自分の対応が間違っているのではないかと不安な気持ちになる。毎晩このような状況でいいのか、現場職員も同じ気持ちで対応しており、ちゃんと指導できていないと思う。

【質問】

Aさんに対する現場でのケアの統一は図られていますか？図られているとすれば、それは具体的にどのような事柄ですか？

【回答】

夕食が済み、ゆっくりした時間に自室でパジャマに更衣してもらい、就寝の時間であることへの理解を図っています。起床後も、洋服に更衣してもらうようにしています。

居室からリビングに出て来たり、ソファで休もうとしたりする時は声を掛け、自室に誘導しています。自分の部屋を認識してもらえるように、自宅から筆筒やアルバムなど個人の物を持ち込んでもらっています。

【質問】

職員の方々は、Aさんが夕食後パジャマに着替えてからも居室に戻らず、和室などで過ごしていることがとても気になっているのですね。特に他の利用者の方々が比較的早く自室に戻るような状況があると、余計にそんな風感じてしまうのでしょうか。こんな時、職員の皆さんは、どんな気持ちを持っているのでしょうか？不安？焦り？困惑？あきらめ？

【回答】

夕食後の時間はゆったりと、仲の良いBさんや職員と過ごす時間として大切にしていますので、他の利用者の方々が自室に戻った後の対応に困難さは感じていません。憶測ですが、「家での暮らしでもリビングで過ごし、部屋は寝るだけの場所と認識していたのではないかと思います。」という意見もあります。「困ったな」と思うのは、深夜にも居室と和室のコーナーを行ったり来たりしていて、Aさんが不安な気持ちになっているのではないかと思います。ホームの環境や生活支援に何らかの課題があるのではないかと思います。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・日中昼寝するでもないAさんに、夜は安心してゆっくり休んでもらいたい。(24時頃からは自室で休んではいるが・・・)
- ・鏡など人影が映るものに対し、不安や興奮することなく過ごしてもらいたい。
- ・口数が少ない方なので、Aさんの本意が見えにくい。傍らにいるときは安心して自分の気持ちを言葉で発してもらいたい。Aさんにとって「いい人間」「安心できる人」「心を許せる人」と思ってもらいたい。

**【質問】**

Aさんが在宅だった頃の生活リズム（食事、睡眠、入浴、趣味など）についての情報は、どのようなものですか？

**【回答】**

壮年期の頃の情報は多くはありませんが、入居前は毎日デイサービスを利用し、入浴もデイサービスを利用していました。食事の習慣では、夕食時に晩酌（清酒）をしていたためホームでも続けていましたが、飲酒後ソファで2時間程休むと寝付けないようなので、昼食時に出しています。

家ではデイサービスから帰るとビールを飲み、娘の迎えを待ち、娘宅で寝泊まりしていました。それ以前は夫婦での暮らしで、どんな風に過ごしていたかは不明です。

元気な時は、庭いじりと読書、ちょっとした手作業をしていたようですが、ホームでの畑仕事は短時間しかできず、興味も示しません。

物を作るのが好きで、「木工所に行って来る。」「これを修理しなければ。」などの声が聞かれます。庭先の花を摘んできて、コップに入れて飾ることも多かったです。

**【質問】**

Aさんが安心したり、ゆったりしている場面はどんな時ですか？

**【回答】**

特定の入居者の方と過ごしている時や、入浴で浴槽にゆっくり浸かっている時です。

**【質問】**

上記の、Aさんがゆったりしている時、Aさんはどんな思い、あるいはどんな感情を持っているのでしょうか？穏やかさ？暖かさ？安心感？優しさ？のんびり感？

**【回答】**

好きな人と一緒にいるうれしさ。好感を持っており、異性としての対象でもあると思います。

入浴の時は、気持ち良さやのんびり感、爽快感があると思います。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)。

- ・20時までは遅出の職員が配置されているので、仲の良いBさんがいなくて落ち着かない時は、Aさんとじっくりと関わって「何もすることがない時間」への不安を和らげる。具体的には、翌日の朝食の下ごしらえの準備の手伝いや、何も話さなくてもいいので傍らに座る。昼間は、散歩やゴミ捨て、掃除機かけなど、活動的に過ごしている。

**【質問】**

仲の良いBさんと一緒にいる時は、どんな風にAさんは過ごしているのでしょうか？

**【回答】**

隣に座り（左側が基本）何をしてもなくテレビを見たり、ウトウトしたりしています。

他の利用者の様子を見て話をすることもあります。小声のため、会話がかみ合っていないことも多いです。

**【質問】**

Bさんの傍らに居ることは、Aさんにとって安心感があるのでしょうか？あるいは、かみ合わない会話でもコミュニケーションを図ることが、Aさんにとっては「いい時間」を過ごせていることになっているのでしょうか？そんな二人を見て、職員の方々はどんな風に感じていますか？微笑ましい？仲良さそ

う?いい雰囲気?

【回答】

Bさんと関わる時間は長く、馴染みの関係もでき、安心感はあると思います。それ以外にも異性としての対象として見ており、Aさんにとっては楽しい時間だといえると思います。  
職員は双方にとってよい刺激になっていると考えています。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・夕刻、窓ガラスに映った自分の姿に「おっ。」と挨拶をし、話が始まる。「おー、今から行くからな。」と言って、職員に、「今から仕事に行くから。」と告げて外に出ようとする。時に、窓ガラスに映った相手(本人)の反応に興奮し、エスカレートすると窓ガラスをバンバン叩き、「生意気。」と言って立腹する。テレビ画面も同様で、テレビを抱え上げ投げつけたりする。

【質問】

Aさんが外に出ようとする時、制止するとAさんはどんな風になりますか?

【回答】

昼間は、一旦は戻りますが同じ行動を繰り返し、口調が強くなることもあります。時間が許す限り付き合おうと納得します。夜間は、「夜遅いから。」と声を掛け、外の暗い様子を見てもらうとAさんなりに納得します。

【質問】

Aさんがテレビを投げるなどの時は、制止が可能ですか?

【回答】

一人の職員では難しいです。Aさんへの関わりとテレビやガラスに映ったものへの対応、映らないような対応を同時に行う必要があります。

【質問】

上記の回答にあるように、Aさんが「納得できる」とある程度落ち着くのですね。あるいはAさんなりに状況理解ができると落ち着くのですね?

【回答】

Aさんは納得しているというより、職員の関わりで場面が変わっただけだと思います。記憶障害のため、自分が何をしていたのかも忘れ、職員の関わりで他のことに意識が向いたただけだと思います。

D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましょう。

- ・夜、何もすることがない。かといって眠くもない。だから眠くなるまで何気なくブラブラしている。  
あまりかまって欲しくない?好きなようにさせて欲しい?
- ・窓ガラスなどに映った自分の姿が他人のように思えて、気になって仕方がない。

E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って（悩んで）いること、求めていることは、どんなことだと思いますか？

- ・何もすることがない。
- ・人の役に立つことをしている気持ちが持てない。

【質問】

Aさんはいろいろとホームの手伝いをしているにもかかわらず、「人の役に立っている」という感覚や感情が持てないのはなぜでしょうか？

【回答】

軽作業が中心で、疲労感がないのかもしれませんが。

体力があり、男性ということもあって、もっと体を動かし、疲れからの充実感が必要なのかもしれません。

【質問】

回答にあるような状況も正しい理解の一つだと思います。しかし一方で、Aさんの認知症は高度程度まで深まっていると推察します。したがって何らかの軽作業あるいは何か役に立つことをして、それを達成したことも、比較的早期に記憶から消失するということも考えられませんか？

【回答】

楽しみ事も短時間で忘れてしまうと思いますが、その時のその瞬間に抱いた感情は残っていると思います。

【質問】

まさにその通りだと私も思います。

職員と一緒にAさんが達成できる家事や用事、趣味などは何かないでしょうか？

【回答】

ゴミ捨て、居室の掃除機かけ、読書などがあります。散歩も好むので、転倒を回避しながら近所の散歩も継続したいです。

【質問】

上記の回答のような事柄を実践することはとても意味のあることだと思います。

ただ、Aさんの胸のうちはどんな感覚・感情が渦巻いているのでしょうか？できることがだんだん少なくなり、分からないことがだんだん多くなり、不安や心配、焦りや無力感、記憶が定まらないこと……。Aさんの「その人らしさ」とは、いったいどんなものなのでしょう？何かできることがその人らしさ？あるいは役割が達成されることがその人らしさ？私たちが、「標準的に安定した生活」という概念を持ち込み、こんな風に生活するのが一番、という思い込みはないのでしょうか？

【回答】

役割とはホームでの生活の一部であり、Aさんの要望も加味して行ってもらっています。「その人らしさ」とは、Aさんの願いや家族の思い、そしてこれまでの生活歴の集大成であるので、「その人らしさ」は全く個別のことと認識しています。

## F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつかでも書き出してみましょう。

- ・字が読めるので、本人と一緒に生活のスケジュールを作ってみる。
- ・本人なりの役割や出番をポイント的に示す。
- ・鏡症状が始まったら、本人が不安や興奮に至る前に関わりを持ち、エスカレートしないようにする。

### 【質問】

上記のような方法はいい方法だと思いますが、さらにそれを進めて、鏡症状が出にくいような配慮は何か考えられますか？

### 【回答】

Aさんが映りそうなもの全てにカバーをかけること。  
本を渡し、夕刻から読書などをしてもらうこと。

### 【質問】

Aさんがどんなことができ、どんな風に生活してきたかを「私たちが知っていますよ」という思いをAさんに伝え、安心感を伝えることは何かないでしょうか？

### 【回答】

戦争に関する記憶から、Aさんの中で印象に残っている話をします。職員を上官と思っている風もあるので、一緒に過ごす時間を大切にします。

木工品をもとに、職人をしていた頃の話をしなが、Aさんの自慢としていることを引き出します。

### 【質問】

回答にあるような関わりや実践は、とても重要な事柄だと思います。是非実践してみてください。

Aさんにとっての「自分らしさ」や「誇り」とでもいうような事柄に職員の皆さんが気づけたなら、Aさんにとっても職員の皆さんにとっても、とても素晴らしいことだと思います。認知症の方々は言葉による理解よりも、視覚的なものを介しての理解の方が理解しやすいというエビデンスもあります。つまり、Aさんにとってのアイデンティティを担保する物の一つが「戦争」にまつわる物なら、その頃のAさんの写真や記念になっている物などを一緒に手に取って見ながら話をするなどの方法も考えられると思います。

あとは、Aさんが「Aさんらしく過ごす」ということについて、再度職員の皆さんで話し合ってみてください。

### 【回答】

現在も日中は、Aさんの自己決定に基づき、Aさんらしく過ごしていると思います。ゴミ捨ての時は女性に荷物を持たせず、率先して持ってきています。

夜間休むまでの過ごし方が、Aさんにとっていい過ごし方になるようにするには、どのような関わり方をすればいいのか今後も考えていきたいです。

### (助言者の考察)

事例全体を通して、Aさんの深夜の過ごし方が気にかかります。Aさんにとっては、居室は寝るためだけの場所であり、居室に入って一人になると、不安感が強くなるのかもしれませんが。また、居間に出て来ると、そこに職員がいて少し安心できるのではないのでしょうか。もしそうならば、Aさんが

居室から居間に出て来る行為は、Aさんが不安感を解消する一つ的手段として行っているのかもしれませんが。

また、Aさんの生活の中で「安心感」を得られるような、あるいは「嬉しさや気持ち良さ」が感じられる場面や時間を少しでも多く持つように関わることがとても重要な事柄だと思います。認知症の人は、記憶として忘れてもその時の「感情」や「感覚」はしっかりと覚えていることが多いものです。生活の中で少しでも「快」の感情を感じられる場面を多くすることが必要なのだと思います。

また一方で、「職員の関わりで場面が変わる」ということは、「ある程度本人が納得した」のだと思います。つまり、職員の対応がAさんの「了解」や「納得」を引き出しているのだと思います。職員の力量の一つは、うまく「場面を切り替える」ことだと考えます。そういう意味で「職員の関わりで場面が変わる」という事柄はとてもうまい対応だと思います。

最後に最も大切な事柄は、「一人ひとり生活の仕様は違う」ということです。「人それぞれ」です。また、援助者にとっては「意味が無さそうな行為」や、あるいは職員から見ると「BPSD（行動・心理症状）と思われるような事柄」も、Aさんにとってはそれぞれに「理由」や「意味」があるということをしかりと理解し、その上でそうしたことに十分配慮した関わりが大切だと思います。

Aさんのホームでの過ごし方は、基本的に上記にもあるように、「自己決定」や「本人らしさ」を十分に担保されているように感じます。

職員の方々が、Aさんにとってホームでの生活が少しでも「安心して過ごすことができるもの」となるように、大変な努力をしていることもひしひしと伝わってきました。